

# 総務委員会 行政視察報告

5月13日から15日にかけて、委員5名、執行部1名、事務局随行者1名で、鳥取県鳥取市・倉吉市・兵庫県豊岡市を視察してまいりました。

## ■鳥取県鳥取市

### 「移住・定住支援施策について」

鳥取市では、平成16年からの15年間で人口が1万人弱減少しており、人口減少が喫緊の課題であるとのことでした。そこで、総合計画に若者をターゲットとした取組にあふね安心して暮らせる「まちづくり」を重点施策として掲げ、令和2年度までの5年間で移住定住者を1,100世帯、2千人以上増やすことを基本目標として取り組んでいくとのことでした。

### ■具体的

には、移住者の家賃を助成する民間賃貸住宅等支援事業のほか、東日本大震災以降には、避難者への住宅支援事業も行うなど、さまざまな支援事業を行うっており、現在までで新築4件、9名の避難者の



▶鳥取市

## 行政視察報告

定住にもつながっているとのことでした。

その結果、平成30年には464名、平成18年からの累計で3,068名の移住につながっているとのことでした。

人口減少は鳥取県においても重要な課題として位置づけられており、移住定住支援制度も数多くあり、県と協力していくことで引き続き移住定住を図っていくとのことでした。

## ■鳥取県倉吉市

### 「移住・定住支援施策について」

倉吉市では、少しでも人口減少に歯止めをかけるために年間200人、5年間で千人の移住者を目標に移住定住促進に取り組んでいるとのことでした。

そのために、移住定住に関してワンストップで対応する専任の相談員を2名置くなどのさまざまな施策を実施し、平成30年には20人の移住者の実績がありました。その移住者の多くは20代や30代であり、就職結婚を機に移住されることが多いとのことでした。

また、自身もUターンで倉吉市に移住されたU交流デザイナーが、その経験により移住者に寄り添った移住支援を

行っているとのことでした。また、困ったときに相談相手がいないといった実際に移住された方の声や自身の体験から、移住者が気軽に集まって相談できる「JUカフエ」を立ち上げ、移住者同士で交流できる場を作ったとのことでした。

また、

商工会議所でもチャレンジショップあきない塾という事業を展開し、倉吉市内で出店を希望する方に最長1年間、空き店舗を月額5千円前後で貸し出しており、また、市では「店舗賃料補助」や「店舗改装工事費補助」などを実施するなど、起業しやすい環境作りをしているとのことでした。



▶倉吉市

移住された方からは「倉吉市は自然環境が素晴らしい」、移住者を支援してくれるグループ活動が魅力的、「地域住民の方が優しく安心して定住できる」などの声をいただいているが、鳥取県全体で見ても、まだまだ若者をはじめとした人口減少が課題であるため、住むところ働くところを今後のキーワードとして、行政としても移住定住支援に向けた施策の充実を図っていききたいとのことでした。

移住された方からは「倉吉市は自然環境が素晴らしい」、移住者を支援してくれるグループ活動が魅力的、「地域住民の方が優しく安心して定住できる」などの声をいただいているが、鳥取県全体で見ても、まだまだ若者をはじめとした人口減少が課題であるため、住むところ働くところを今後のキーワードとして、行政としても移住定住支援に向けた施策の充実を図っていききたいとのことでした。

した。

## ■兵庫県豊岡市

### 「地域おこし協力隊の活動について」

豊岡市では、総合計画に基づき定住促進を行っており、その中の一つの事業として平成26年から地域おこし協力隊事業を行っているとのことでした。

これまで、26名の地域おこし協力隊を受け入れており、うち5名が任期途中で解雇したものの、ほか5名の隊員が卒業後に定住し、そのうち3名が起業されているとのことでした。

卒業後の起業支援として、豊岡市地域おこし協力隊起業支援補助金「制度を設け、国の特別交付税措置による100万円の起業支援に加え、市独自で100万円を上乗せしているとのことでした。

しかし、現在、卒業後の支援は起業時の補助のみであり、これから卒業する隊員が増えていくにつれて、卒業後のさらなる支援制度の拡充が必要であると感じているとのことでした。



▶豊岡市